

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● 「林業事業体経営研修～施業集約化×事業体会計～」を開催しました

令和4年6月8日（水）～10日（金）、作業の効率性や収益性を考慮した現場管理ができる中核的な森林技術者を育成するため、「林業事業体経営研修～施業集約化×事業体会計～」を開催しました。

当研修は、鹿児島大学が実施している出前講座「施業集約化と事業体会計」のカリキュラムを取り入れたもので、(株)鹿児島総合研究所の新永代表、鹿児島大学の奥山氏、牧野氏を講師としてお迎えしました。

研修には8人が参加しました。参加者は事業体の現場管理者となり、施業の集約化、事業計画の策定、収支の算出を行い、収益の配分先、赤字になった場合は誰が負担するのかなど現実的な想定をしながら、演習を行いました。

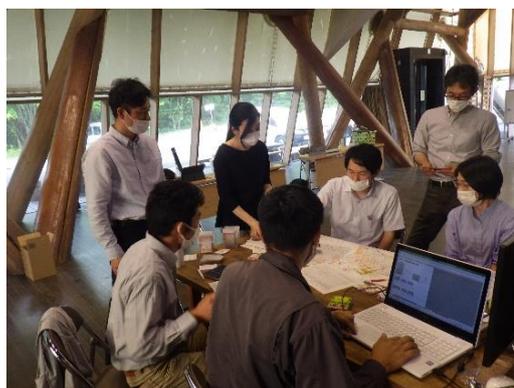
施業の集約化では、森林計画図と森林簿を使いながら、どの森林所有者を中心に施業地を取りまとめるのか、作業道をどのように配置・開設するのかなどを考えながら検討しました。

参加者それぞれが施業計画書を作成し、四半期ごとに収支を算出し、1年間の事業収益を確定しました。

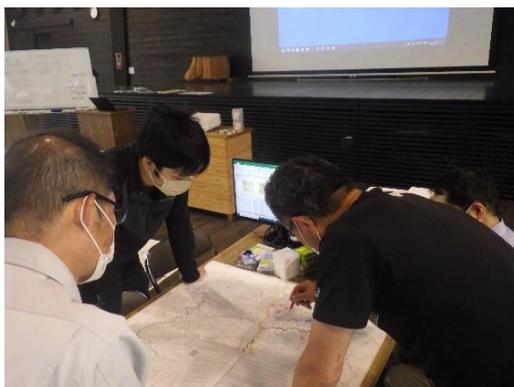
続いて、ワークショップ形式で参加者それぞれが作成した施業計画書について、間伐計画の作成や施業の同意取得などに係る事務経費や、森林技術者や使用する機械の配置、事業収益・森林所有者への還元額などが適正かどうか検討しました。

内容が濃く、3日間では時間数が足りないほどでしたが、参加者からは「再度研修を受けたい」、「多様なパターンのシミュレーションをしたい」など前向きな声が寄せられました。

林業を取り巻く環境は日々変化しており、常に状況の変化に対応した研修内容となるよう努めてまいります。



事業計画の検討



施業の集約化の検討



作業方法の検討

▼裏面へ続く

●県産広葉樹活用に向けた研究

木材利用拡大委員会では、現在、県産広葉樹の新たな活用方法を模索しているところです。

県産広葉樹の有効活用に向け、令和2年度から令和3年度にかけて、県産広葉樹20種の枝葉の成分抽出を行いました。

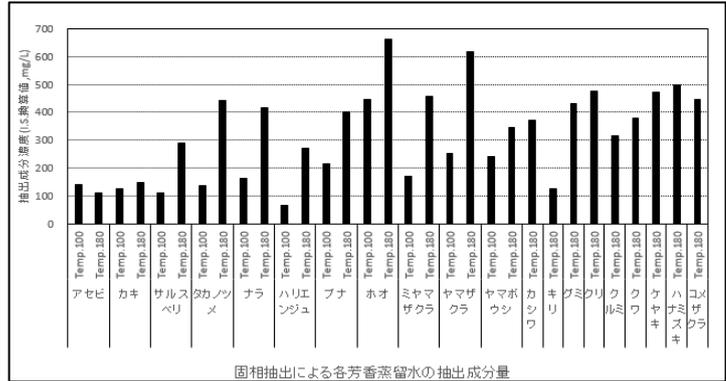
飛騨産業（株）が高圧水蒸気蒸留（180℃）と一般水蒸気蒸留（100℃）で得られた芳香蒸留水から成分を抽出し、岐阜県生活技術研究所が成分分析を行いました。

その結果、アセビ以外は100℃よりも180℃で抽出成分量が増加したことを確認しました（図1）。特に、ホオとヤマザクラは抽出成分濃度が非常に高い値となりました。

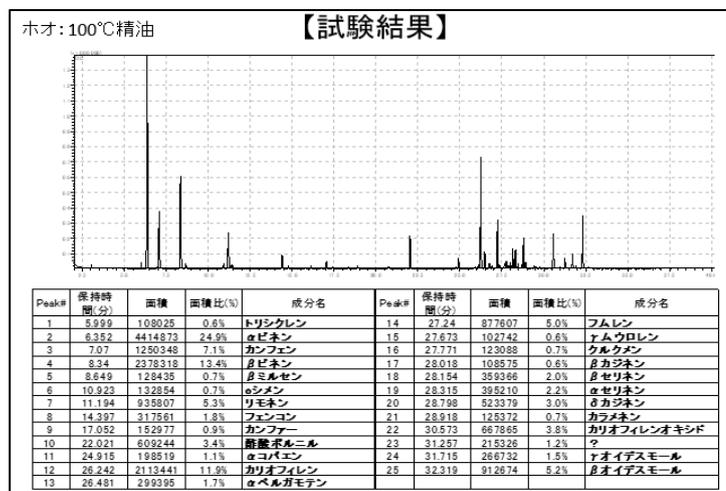
また、ホオからは精油が取得できました。100℃の精油にはピネン類が多いことから抗菌性が、180℃の精油にはオイデスマール類が多いことから抗蟻性があることが推定され、こうした特徴を活かした資材への活用が期待されます（図2、3）。

今回の結果をもとに、広葉樹成分抽出物がどのような分野へ活用できるか模索・検討中です。

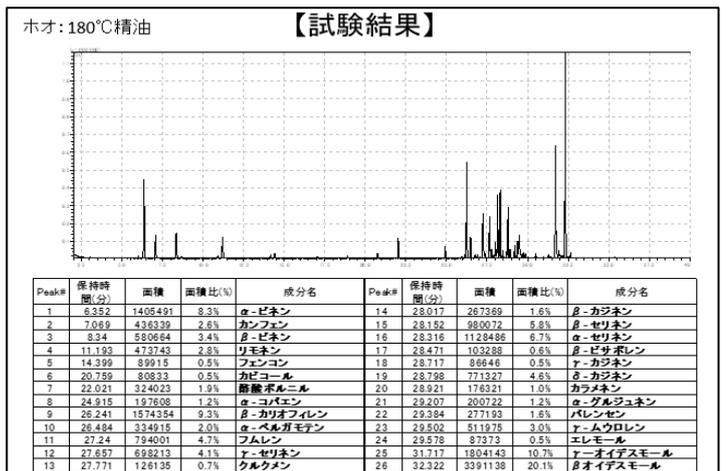
今回の試験結果について関心のある方は、分析結果をお知らせしますので、是非コンソーシアムまでご連絡ください。



【図1】固相抽出による各芳香蒸留水の抽出成分量



【図2】ホオ精油（100℃）分析結果



【図3】ホオ精油（180℃）分析結果

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com